



松ぼっくり

築地小HP
日々全力更新中学校HP <https://tainai-tsuiji-es.edumap.jp/> e-mail tsuiji-es@tainai.ed.jp

学び合い 認め合い 鍛え合う子

令和6年10月9日 発行

問い続ける子ら ～ 発言できなくても ～

校長 田 村 稔

先日、ある学年がp4cで学んだ後の話です。一人のお子さんが私のところにやってきて、うつむきながら寂しそうに言うのです。「校長先生……。私ね……。今のp4cで話せなかったの……」。

p4cで学ぶことを楽しんでいるお子さんは大変多いです。子どもたち自らが設定した問いについて発言すれば、誰も否定せずにしっかりと聞いてくれます。「みんなが自分の話を真剣に聞いてくれている。自分は学級のみんなの学びに貢献している。クラスメイトから大切にされている」。このような思いが、学級の中での自己有用感を高め、自己肯定感も高めることになるのでしょう。友だちからケアされるのです。さらに、「友だちが聞いてくれたのだから、今度は自分も友だちの発言をしっかり聴こう」と身を乗り出して聴こうとする姿勢が友だちをケアします。このようにして子ども同士、互いに「ケアし、ケアされる」関係性が醸成されることになります。これがp4cを楽しめている大きな点だと思います。

ただ、中には、冒頭のお子さんのように、発言したくても発言できないお子さんもいます。

ある学校で、あるお子さんがp4c後に書いた振り返り作文の概略を紹介します。

「ぼくは、p4cが苦手です。友だちの発言について考えているうちに別の子の発言も重なってきて、さらに先生も話したりするうちに、何が何だか分からなくなってしまうからです。だから、ぼくはp4cではあまり発言できません。発言できないお子さんの理由の一つをよく言い表していると思います。そして、このお子さんの作文はこのように続くのです。「でも、p4cが終わった後、給食を食べながら考えていたことは次のことです（略）」。

このお子さんはp4cが終わった後も、問いについて考え続け、それを振り返り作文の形で言語化しているのです。素晴らしいことだと思います。「問い（考え）続けること」は大切にしたい子どもの学びに向かう力の一つだと考えています。大げさに言えば、「問いを生きる」ということにもつながるでしょう。

当校には、学校でp4cをした後に家庭学習として、その日のp4cの感想や対話後の考えを書いてくるお子さんがいます。「今日のp4cはしびれました（マジで）。私ももっと言いたくて仕方がなかったんだけど、みんなのp4cなので我慢しました。（この後、問いに対する考えが書かれているのですが、省略します）」また、対話後に教師のところに行って「さっきのp4cでは言えなかったんですが……」と改めて自分の考えを教えてくれるお子さんもいます。いずれも素晴らしいことだと思います。

冒頭の寂しそうにつぶやいたお子さんに、私は次の言葉で応えました。「p4cで発言するって大事なことで、発言すると、とってもいい気持ちになるんだよ。でもね、もっと大事なことは、友だちの発言をよく聞いて、そしてよく考えることなんだよ。あなたはそれをやっていたでしょう。とっても立派だったよ。そして、話せなくて残念っていう今の気持ちをしっかりと持ち続けられれば、そのうち話せるようになるよ、きっと。あせらずに対話を楽しんでいこうね」。そのお子さんは、こくんと頷いて友だちの後を追うように教室を出ていきました。

子どもたちのよりよくなりたいという気持ちをしっかりと受け止めながら、私たち学校職員一同、すべての子どもたちが問い続けること、考え続けることを楽しめるよう全力を尽くします！どうぞよろしくお願い申し上げます。

ふるさとを愛し、たくましく自分の道を切り拓いていく子ども

～ 築地小学校キャリア教育の取組 ～

「ふるさとを愛し、仲間と協力して、たくましく自分の道を切り拓いていく子ども」は、築地小学校・中学校コミュニティ・スクールで設定した目指す子ども像です。地域と連携したキャリア教育を教育課程の中核に位置付け、各教科や領域の学習と関連させながら、教育活動を進めています。このキャリア教育をとおして、地域の「ひと・もの・こと」と関わる活動を充実させ、**子どもたちが夢や目標をもち、仲間や地域の人たちと協力しながら自立に向けた力を身に付けるとともにふるさと築地への郷土愛を育むこと**を目指します。

各学年の活動の一部を紹介します。

<1年生の活動より>

1年生は、9月に、樽が橋遊園、胎内市昆虫の家へ校外学習に行きました。いろいろな動物と触れ合ったり、昆虫の生態について教えていただいたりしました。胎内市自慢の施設での校外学習を楽しみ、豊かな自然を感じることができました。



<2年生の活動より>

2年生は、9月にまち探検に出かけました。学校の近くにある魚屋、会社、郵便局、保育園などを訪ねて見学し、たくさん質問をしました。地域のお店や施設、人々に対しての愛着が深まる活動となりました。



<3年生の活動より>

3年生は、築地の農業を主なテーマにして活動しています。9月には、市内のブドウ園の見学に行きました。大きく実ったぶどうに興味津々。進んで質問をしたり、メモをとったりしていました。築地地区はいろいろな農業がさかんであることを実感しました。



<4年生の活動より>

4年生は、市の歴史や伝統を主なテーマにして活動しています。6月には地域の皆さんから築地獅子舞について学び、7月の築地まつりをみんなで見に行きました。築地の伝統を守り残していこうとする人々の姿から地域愛を感じました。



<5年生の活動より>

5年生は、胎内市特産の米粉を主なテーマにして活動しています。5年生で考えたオリジナル米粉クッキーをマサヤ菓子舗さんから商品化していただき、10月13日（日）、米粉フェスタにて限定販売する運びとなりました。売上見込は400個以上！パッケージやチラシ、動画、パンフレット、ポップも子どもたちで手作りしました。



<6年生の活動より>

6年生は、地域おこし、いろいろな職業について学ぶ活動を進めています。ura mizusawa farmの皆さんに教わってチューリップを活かしたフラワーボトル作りを行い、佐渡の修学旅行の見学先に配って築地をPRしました。今後も地域おこしに関わる方々の話やいろいろなお仕事の話聞き、地域のため、人のために働くことについて考えを広げ深めていきます。



9月26日 胎内市小学校親善陸上競技会

6年生全員で参加しました。大きな陸上競技場で、全員が力の限りにがんばり、他校の6年生と交流を広げました。築地小の6年生は挨拶がとても良い、と評判でした！



築地小・中合同 いじめ見逃しゼロ スクール集会

10月3日（木）、築地中学校体育館にて、いじめ見逃しゼロスクール集会を行いました。中学校1～3年生と、小学校5・6年生が参加しました。講師として、新潟お笑い集団NAMARAの森下英矢さんにお出でいただきました。

前半は、中学校の生徒会の皆さんが作成した「グループLINEでの無視」といういじめ場面についての動画を見て、「傍観者」がどう行動すればよいかを話し合いました。無視されているのを見て何もしないこともいじめであることを確認し、「注意する」「声をかける」「大人に相談する」など、自分の考えを書き、発表しました。中学生が各班の話し合いを進行し、タブレットで意見を整理し全体に発表するなど、リーダーシップを発揮していました。

後半は、講師の森下さんから、いじめ防止に関する話をいただきました。まず、CMの声、サッカーの実況など、プロフェッショナルな技を披露しながら、「声の出し方によって良くも悪くも聞こえる」ことをお話しくさ



そして、学生時代の友達の励ましにより人生が変わったというご自身の経験談をとおして、「友達とのちょっとした会話が人生を変える。良い風にも悪い風にも。」「みんなでポジティブな声をかけ合い、だれもが『チャレンジ』できる集団になってほしい」「それぞれの考えは違っていい。相手の意見を大切に、自分の意見も大切にしてほしい」というメッセージをいただきました。最後に、集会で学んだことを一人一宣言にまとめました。

小学生・中学生で交流を深めながら、動画についての話し合い、森下さんの話をとおし、いじめ防止に向けての意識と実践力を高めることができました。



【一人一宣言より】

- ・人と関わるときに対立することが一つは起きてしまう。その時には互いを尊重し傷つけないように関わっていききたい。（中学生）
- ・相手と対立しちゃうときがあっても、お互いに話をして仲が悪くなるのを避けたい。（中学生）
- ・SNSやライン等でかげで悪口を言ってはいけない。見かけたらすぐに止める。（小学生）
- ・いじめをなくすには、自分と相手のことを同じくらい大切にすることが大切だと思いました。（小学生）